

めあてを立てよう! 2

めあての立て方について、前回簡単に説明しました。ポイントとしては、本時の評価規準とちゃんと合っているかが大事だという話をしました。評価規準については、「評価規準のための作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」(国立教育政策研究所)を参考にしてください。全ての教科で大概の単元について書かれているかと思います。研究授業時の指導案作成に大いに役に立つかと思います。(文部科学省の説明会で、概ね記載されている内容を引用すればいいと断言していました。)印刷室の職員図書にあるのでご活用していただければと思います。

9月14日の教職員課訪問では、皆さんが公開授業を行ってくれました。参観するタイミングにもよるのですが、何人かの先生がめあてを提示してくれていました。実際に使われていためあてを紹介すると・・・

- ①: 1年国語 「前回の自分の考えを踏まえ、クラスで共有し、読みを深める」
- ②: 2年国語 「平家物語の冒頭部分の言葉の響きを楽しもう」
- ③: 3年美術 「水墨画の技法を意識しながら描こう」
- ④: 2年社会 単元目標「平安時代には都や仏教が新しくなった原因は何かを考える」
- ⑤: 2年理科 学習課題「ヒトはどのように刺激を受けて行動にうつしているのか」

①～③は、本時のめあてとして設定されたものです。下線部に着目するとこの時間で子供にどんな力をつけたいのかがよくわかりますよね。ちなみに、①は「思考・判断・表現」、②は「関心・意欲・態度」、③は「技能」だと想定できます。めあての後の授業展開は参観できていませんが、この観点と授業内容がマッチしていれば、子供は見通しを持った授業に臨むことができるということです。今回の公開授業で見られためあては、評価の観点が一つのものでしたが、例えば2つある場合も同じように考えればと思います。「関心・意欲・態度」と「思考・判断・表現」の組み合わせであれば、「～を楽しみながら、～について考えよう。」というように2つの観点を意図する表現をつなげることで、子供たちは目的を明確化することができるのです。

ところで、④と⑤ですが、この2つは「単元目標」と「学習課題」と表現されました。中身もその通りだと思います。これは、一概に間違いとは言えませんが、本時の目標(めあて)とは違います。詳しくは、後日説明しますが、簡単に指摘するとすれば、この学習課題を解決するために、今日(本時)は何をするの?ということです。例えば、「～という現象が起こるのはなぜだろう」という学習課題を解決するために、今日のめあては「その原因となるものを調べよう。」(技能)という具合です。よくある授業の進め方としては、学習課題を提示した後、本時のめあてを示すというパターンが多いかと思います。理科や社会は問題解決型の学習をとる場合が多いので、このように学習課題を提示することが多いのです。より子供たちに見通しを持たせるためには、本時のめあてを丁寧に提示することが大切でしょう。